



CIインサイトレポート — IBD —

【 目次見本 】

2016.12
株式会社社会情報サービス
Social Survey Research Information Co., Ltd

§ 調査概要

赤字は調査重点薬剤

調査対象疾患	IBD(クローン病<CD>・潰瘍性大腸炎<UC>)		
対象薬剤	既存薬	5-ASA、ステロイド、タクロリムス、アザチオプリン、タクロリムス、 生物学的製剤 (レミケード、ヒュミラ、インフリキシマブ[®]BS)	
	開発薬	CD : ゼンタコート (アデリコ[®]) 、vedolizumab、PF-00547659、MT-1303 UC : リアルダ (マラジ[®]) 、vedolizumab、AJM300、ABT-494、KAG-308、LY3074828	
調査種類	Part I データ分析編	Part II 定量調査編	Part III KOLヒアリング編
調査手法	(オープンソースを基にした) データ分析	インターネットによるWEB調査	深層面談調査
調査対象医師 (対象医師数)	-	IBD領域の専門医 (140名)*	IBD領域のTOP KOL <関連学会理事・委員> (3名)
調査対象施設・ 診療科	-	消化器内科 HP・GP、 一般内科 HP	消化器内科 HP
調査内容	<既存薬> プロファイル、作用機序・特性、薬価、 販売高推移、臨床試験、関連文献	(CD, UC 別に) ・対象患者数 ・薬剤別処方状況 ・生物学的製剤の処方状況と 薬剤別評価及び今後の処方動向 ・バイオシミラーの使用状況と 今後の処方動向 ・開発薬の認知度・評価と 上市後の処方意向	(CD, UC 別に) ・生物学的製剤の処方状況と 薬剤別評価及び今後の処方動向 ・バイオシミラーの使用状況と 今後の処方動向 ・バイオシミラーの国内での処方動向予測 ・開発薬の評価と期待度 ・(経口剤・注射剤別での) 今後の中心薬
	<開発薬> プロファイル、作用機序・特性、臨床試験、 関連文献		
	<その他> 注目企業動向、学会情報		
調査実施時期	2016年9～12月		
体裁/頁数	Part I・・・PPT or EXCEL、Part II & III・・・PPT / A4 約190ページ		
レポート価格	第1弾特別価格 フルセット<3パート> 150万円(税別)		

* 対象医師の詳細 : クローン病・潰瘍性大腸炎患者をそれぞれ5人以上/月診療、尚且つ生物学的製剤を両疾患でそれぞれ3人以上/月処方している医師
参考データ) PatientsMap2016より 消化器内科・胃腸科における5人以上診療率 クローン病 : 11% / 潰瘍性大腸炎 : 32%

< Part I データ分析編 目次 >

§ 調査概要

I. 既存品

1. プロファイル
2. 作用機序・特性
3. 薬価
4. 販売高推移
5. 臨床試験(UMIN)
6. 臨床試験(JAPIC)

II. 開発品

1. プロファイル
2. 作用機序・特性
3. 臨床試験(JAPIC)

III. 注目企業動向

1. ゼリア新薬工業株式会社
2. 田辺三菱製薬株式会社
3. アツヴィ合同会社
4. EAファーマ株式会社

IV. 学会情報

1. 関連学会①
2. 関連学会②
3. 関連学会③

V. 関連文献

A. 既存品

- A-1. 既存品・製品別
- A-2. 既存品・複数

B. 開発品

- B-1. 開発品・製品別
- B-2. 開発品・複数

< Part II 定量調査編 目次 >

§ 調査概要&回答者プロフィール

§ Summary

- | | |
|---------------------------------|-----------------------------------|
| 1. 診察患者数(3ヶ月当たり) | 10. インフリキシマブBSの製品評価 |
| 2. 薬物療法/LCAP・GCAPの実施状況 | 11. インフリキシマブBSの採用状況・非処方理由・今後の処方意向 |
| 3. 薬剤別使用医師割合 | 12. 生物学的製剤の製品別今後の処方動向 |
| 4. 薬剤別処方患者割合 | 13. 開発薬の認知状況 |
| 5. 薬剤別総合満足度 | 14. 開発薬の処方意向 |
| 6. 生物学的製剤の第一選択薬 | 15. 開発薬に対する期待内容 |
| 7. 生物学的製剤が効果減弱した場合に最も実施頻度が多い対処法 | 16. 生物学的製剤の今後の処方動向・今後の使用開始のタイミング |
| 8. 生物学的製剤の製品別有効性に対する満足度 | 17. 新規の生物学的製剤に対する重視内容 |
| 9. 生物学的製剤の副作用面に対する満足度 | 18. 新薬開発の必要性 |

§ 追加データ

< Part III KOLヒアリング編 目次 >

§ 調査概要

§ 調査対象医プロフィール

§ Summary

1. 担当患者数及び生物学的製剤の処方割合と近年の処方動向の変化
2. 生物学的製剤の使用対象・位置付け
3. 生物学的製剤の薬剤別処方状況
4. 生物学的製剤の薬剤別使い分け・使用対象(対象:レミケード/ヒュミラ)
5. 生物学的製剤の薬剤別評価(対象:レミケード/ヒュミラ)
6. インフリキシマブBSの処方状況
7. 生物学的製剤の薬剤別今後の処方動向(対象:レミケード/ヒュミラ)
8. 既存薬の問題点
9. 開発薬の評価
10. 生物学的製剤の今後の処方動向の変化
11. 剤型別今後の中心薬